

平成30年度シート

分担金・ 拠出金名	アセアン留学生交流等拠出金	種別	任意拠出金	30年度 予算額	51,849千円	総合評価	B
拠出先 国際機関名	アスジャ・インターナショナル						
国際機関等 の概要及び 成果目標	<p>(1) 設立経緯等・目的：2000年4月、東南アジア諸国連合（ASEAN）元日本留学生評議会（ASCOJA：ASEAN諸国の元日本留学生会の連合体）の日本側カウンターパートとして設立された（事務局は東京）。日本とASEAN諸国間の友好協力関係の中核的担い手となる親日派・知日派の育成を目的とする。2018年5月現在、ASEAN10か国と日本の関係組織等が参加。</p> <p>(2) 拠出の概要及び成果目標：本件拠出は、ASCOJAから推薦された留学生を対象とする交流事業及びASEAN各国におけるシンポジウムの実施に充てられる。これにより、ASEAN地域における親日派・知日派の一層の増加を図り、ひいては日本とASEAN諸国の更なる関係強化を図る。</p>						
1 専門分野 における活 動の成果・影 響力	<ul style="list-style-type: none"> ・アスジャ・インターナショナル（アスジャ）は、日本とASEAN諸国の架け橋となる親日派・知日派を多数育成することを目標とする。毎年度の事業計画に基づき、日本国内においては、ASCOJAから推薦された国費留学生を対象に、日本人大学生との討論会、地方都市でのホームステイ等の交流事業、日本語作文の添削等を実施。国外においては、毎年3～4回、ASEAN諸国において日本をテーマとするシンポジウムを開催するとともに、ASCOJAの年次総会に出席している。また、オンライン・プラットフォームを構築し、アスジャ及びASCOJA関連情報の一元化を進めている。 ・2000年の設立以降、アスジャのプログラムを終了した留学生は137名。2014年度から対象留学生数を拡大した結果、現在年間約80名の留学生がアスジャのプログラム（日本人大学生との討論会、文化紹介のための小学校訪問、日本企業訪問及びマッチング、地方都市でのホームステイ等）に参加。2017年度は17名がアスジャのプログラムを終了し、その内14名が日本関連企業に就職又は日本での研究続行を選択した。アスジャは、留学生の日本語学習補助にも注力しており、現在の留学生の中には日本語能力試験（JLPT）の最高難度N1の満点合格者、外国人による日本語弁論大会における上位入賞者もいる。 ・ASCOJAにはASEAN各国の政財界等の重鎮が所属しており、会員総数は2万6千人を超える。ASCOJA関係者はアスジャと協力し、2017年9月に2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を見据えたハラル文化の日本市場への浸透（於：ブルネイ）、同年10月に日本の教訓を踏まえたASEANにおける防災（於：ミャンマー）、2018年1月に日本とASEANの教育制度比較（於：ベトナム）に関するシンポジウムをそれぞれ開催。上記シンポジウムには、ASEAN全ての国から元日本留学生が参加したことに加え、開催国からも政府関係者、大学関係者等を中心にそれぞれ150名以上が出席。元日本留学生が日本とのつながりを再認識し、ネットワークを更に強化するとともに、元日本留学生以外にも日本をより深く理解してもらい、知日派を増やす上で有意義なものとなった。ASCOJAはアスジャがこのような協力を継続して行っていることを高く評価している。 ・2017年12月、東京においてASEAN設立50周年及びASCOJA設立40周年を記念した交流行事を開催。200名以上の日本人学生、大学関係者等が参加し、アスジャ所属の留学生との交流を深めるとともに、ASEANに関する見識を深めた。 ・アスジャは、公益財団法人東芝国際交流財団と共同で、ASCOJAが推薦する高校生と日本の高校生の交流事業を実施。また、独立行政法人国立青少年教育振興機構が実施するASCOJA推薦中学生の招へい交流事業の企画・実施運営においても側面支援を行っている。上記2つの事業は、アスジャが実施する大学生・大学院生レベルの交流事業と相乗効果を発揮し、ASEAN地域における青少年育成に大きく貢献している。 						
2 組織・財 政マネジメ ント	<ul style="list-style-type: none"> ・外部監査 対象年度：2017年、実施主体：アイオーシー監査法人、報告・提出月：（前期）2017年11月に実施、（後期）2018年6月に実施、結果及び対応：特段の指摘事項なし ・財政状況の報告：本件拠出は日本からのもののみであるため、下記5に記入 ・事務総長以外の常勤職員が事務局主幹1名のみであった状態が複数年続き、事務局主幹に過度の負担がかかっていたが、2017年8月末から会計担当の常勤職員を採用し、勤務環境が改善された。 ・2015年度に職員を6名から4名に削減し、事務総長を無報酬化することで事務局運営費を1,000万円以上削減。全体支出に占める人件費の割合が約51%（2014年度）から約30%となった。2017年度においても常勤職員3名に加え、派遣職員の活用等により、全体支出における人件費の割合を30%に維持している。 						

3 日本の外交課題遂行における有用性・重要性	<p>・日・ASEAN 関係の強化は日本外交の重要課題であり、2017 年においても日本は ASEAN 諸国との対話・協力の枠組みの強化を進めてきた。なかでも、青少年を中心とした人的・文化的交流が重視されており、2017 年の日・ASEAN 議長声明において ASCOJA を通じた交流の進展が評価されている。アスジャは、ASCOJA の交流活動の支援を行うこと及び各国の元日本留学生会と緊密なコンタクトを行うことによって、ASEAN との交流強化に大きく貢献している。また、ASEAN 出身の留学生に対する様々なプログラムの実施を通じて人材育成、親日派／知日派の育成に貢献するものであるとともに、これら留学生は出身国の様々な分野で広く活動していくことから、ASEAN との関係強化にも資するものである。このようにアスジャの活動は、日・ASEAN 関係の強化に大きく貢献するため、日本の外交政策上、有益かつ重要である。拠出金による直接の成果は上記 1 のとおり。</p> <p>・アスジャの意思決定機関である国際理事会に際しては、審議事項につきアスジャ事務局から日本政府に事前に確認が求められており、日本政府の意向を確実に反映させてきている。</p> <p>・上記国際理事会に出席する日本理事は、日本政府が指名することとなっており、同理事を通じて日本の発言力・影響力を確保している。加えて、外務省員もオブザーバーとして国際理事会に参加しており、必要に応じて日本政府の意向を表明する地位を確保している。</p> <p>・2017 年 9 月にブルネイにて開催された第 23 回 ASCOJA 総会（アスジャが開催を支援）には、堀井巖外務大臣政務官及び福田康夫元内閣総理大臣が出席。堀井巖外務大臣政務官は来賓挨拶の中で、アスジャを通じて ASCOJA を支援していく旨表明した。</p>						
4 日本人職員・ポストの状況等	加盟国等の数	全職員数 (専門職以上。以下同じ。) (2017 年 12 月末時点)	うち、 日本人職員数	うち、 日本人幹部職員数	日本人職員の比率 (2017 年 12 月末時点)	日本人職員数 (前年同時期)	日本人幹部職員数 (前年同時期)
<p>その他特記事項：</p> <p>・佐藤次郎氏が事務総長を務めている。</p>							
5 PDCA サイクルの確保等	PLAN	日本政府と連携の上、アスジャ事務局が事業計画案及び予算案を作成し、国際理事会で承認を得る。					
	DO	5 月頃、日本政府から拠出金が支払われ、アスジャ事務局は ASCOJA と連携し、事業計画に沿って事業を実施する。					
	CHECK	収支決算につき、外部による監査を受ける。2016 年度の監査結果は適正と報告された。2017 年度の結果は 2018 年 6 月に報告予定。					
	ACT	監査結果も踏まえ、国際理事会において、必要に応じて改善等の提言を行い、活動に反映。					
<p>・財政状況の報告 報告・提出：2018 年 4 月（2017 年度）</p>							
担当課室名	人物交流室						